

⑱ 成長・交流・情報・暮らしの基盤づくり

2040年に実現したい姿

成長と交流の基盤づくり

【スーパー・メガリージョンの形成により新たなイノベーションが創出】

- ⑦ リニア中央新幹線や北陸新幹線により、京都と全国の拠点都市が新たな国土軸で結ばれ、三大都市圏が約1時間で結ばれるスーパー・メガリージョンが形成され、産業立地、広域交流が進むことにより、京都の持つ文化、技術を生かした新たなイノベーションや価値が生み出されています。

【道路ネットワークの整備と道路交通の技術革新により産業が成長】

- ① 高速道路を中心とする広域幹線道路網の整備と自動運転をはじめとする道路交通の技術革新が進むことにより、高速・省人化された物流サービスが産業拠点と全国各地を結び、府域への投資が促進され、産業が成長しています。

【京都舞鶴港が日本海側のゲートウェイとして確立】

- ⑦ 京都舞鶴港が、物流・人流の双方において、関西経済圏における日本海側ゲートウェイとして確立しています。

情報と暮らしの基盤づくり

【情報通信基盤の整備により新たな人や地域のつながりが創出】

- ⑤ より多くの情報を発信・共有できる情報通信基盤が府内全域に張り巡らされ、AI・IoT等の新しい技術の活用で、スマートなライフスタイルや地域コミュニティの維持、新たな人や地域とのつながりが生まれています。

【アセットマネジメントの推進によるインフラ施設の持続的な安心・安全が確保】

- ④ AI、IoT、ロボット等、新技術を活用したインフラ施設のモニタリングと効果的なアセットマネジメントにより、持続的にインフラ施設を安心・安全に利用することができます。

【地域交通網の整備により新たなライフスタイルが確立】

- ⑦ JR山陰本線・奈良線・片町線・関西本線等の複線化、近鉄けいはんな新線の延伸等の鉄道路線網の拡充や地域間を結ぶ幹線道路網の整備により、生活圏や通勤圏・交流圏が拡大しています。

- ④ 地域と交通結節点、医療、教育、福祉、商業施設等の生活拠点を結ぶ地域公共交通の確保とともに、自動運転や小型、低速のモビリティやシェアリング、MaaS等、府全域で利用者の多様な移動ニーズに対応した持続可能な交通サービスが確立しています。

- ⑦ 全駅のユニバーサルデザイン化やキャッシュレス化が進むとともに、駅前広場整備によるアクセス性の向上等により、誰もが利用しやすく、安全で人にやさしい、スマートな鉄道環境が整い、公共交通を中心とした、安心・安全でエコな生活スタイルが確立しています。

4年間の対応方向・具体方策

道路網等の整備を進め、地域振興・産業観光振興につなげます。

- 1 新名神高速道路の全線開通及び6車線化を促進するとともに、山陰近畿自動車道の早期全線開通に向け、京丹後大宮IC～(仮)網野IC間の整備及び(仮)網野IC～(仮)豊岡IC間のルート確定を促進します。
- 2 京都縦貫自動車道、京奈和自動車道、舞鶴若狭自動車道の暫定2車線区間の4車線化整備を促進します。特に、京都縦貫自動車道については、NEXCO西日本による効率的な一体管理に移行し、利用者への情報提供の充実や、分かりやすい料金設定等により、利便性を向上させます。
- 3 高速道路のICアクセス道路となる、国道24号(寺田拡幅、城陽井手木津川バイパス)、国道307号(市辺～奈島、宇治田原山手線)、国道312号(大宮峰山インター線)、宇治木屋線(犬打峠)、山城総合運動公園城陽線(城陽橋)、(都)内里高野道線等の整備を促進します。
- 4 名神高速道路と第二京阪道路をつなぐ京都南JCT、京都市～亀岡市、京都市～大津市を結ぶバイパスや、堀川通(国道1号)の新たなバイパストンネル等、京都都市圏のネットワーク強化を促進します。
- 5 安全かつ円滑な物流等を確保するため、重要物流道路の指定や広域道路ネットワークの整備により、経済や生活を安定的に支える機能の強化及び主要な拠点へのアクセスや災害時のネットワークの代替機能を強化します。
- 6 幹線道路ネットワーク強化のため、国道9号、国道163号、国道423号、国道429号、国道175号、国道178号など広域的な連携を支援する道路の整備を進めます。
- 7 リニア中央新幹線(名古屋～大阪間)、北陸新幹線(敦賀～大阪間)の整備を促進します。

関西経済圏の日本海側ゲートウェイとして、京都舞鶴港のコンテナ、フェリー、クルーズ機能の強化やアクセス性向上により、国内外との交流を促進し、まちづくりや地域活性化につなげます。

- 8 取扱貨物量の増加や航路の拡充を見据えた舞鶴国際ふ頭における第2バースの整備とⅡ期整備を進めるとともに、大型クルーズ船の寄港に対応できる第2ふ頭の施設整備等を進めます。
- 9 京都舞鶴港から高速道路へのアクセス機能強化のため、国道27号(西舞鶴道路)、臨港道路上安久線等の道路整備を促進します。
- 10 前島ふ頭のフェリーターミナルの再整備を進めるなど、物流・人流の強化に向けた取組を進めます。

ビッグデータやAIなどを活用し、デジタル社会に即した豊かな地域づくりを進める環境を整備します。

- 11 デジタル・トランスフォーメーションの推進やメタバース活用のためのプラットフォームを構築するとともに、サイバー空間における経済活動上の安心や信頼性の確保等に資する環境整備を進めます。
- 12 府民誰もが、テレワーク・遠隔教育・遠隔医療等のサービスを利用する上で不可欠な、光ファイバー等の情報通信基盤の府内全地域への展開を促進します。
- 13 デジタル社会に即した個人情報保護等に対応し、府内の行政機関・中小企業・医療機関等を含めた社会全体のセキュリティ対策に取り組みます。

- 14 官民ともに不足するデジタル人材の育成や、利用者支援としての高齢者向けスマートフォン教室の開催等、デジタル社会に即した、人への支援に取り組みます。
- 15 A I を活用した災害予測や、I C T を活用した遠隔診療、M a a S など、府民生活に身近な、防災・医療・交通等の分野におけるデジタル技術の実装を促進します。
- 16 自動運転による新たな移動ツールの導入、自動配送による物流効率化等の成果を府内に広げます。

公共インフラ施設について、計画的な予防保全型維持管理による長寿命化を進めます。

- 17 橋りょう、トンネル、河川護岸・堤防その他インフラ施設ごとの個別施設計画に基づき、計画的な点検、補修に取り組むとともに、点検結果や補修履歴等をデータベースに蓄積し、効率的・効果的なメンテナンスに生かします。
- 18 大学や研究機関と連携し、画像計測や非破壊検査等の新技術を活用したモニタリング及びセンシングにより、インフラメンテナンスにおける省力化・生産性の向上を進めます。
- 19 法定点検の結果により、早期に補修が必要と診断された国道307号（山城大橋）等約100橋、国道173号（須知山トンネル）等約20トンネル等の道路施設について優先的に補修を行うとともに、河川、海岸、砂防、漁港、港湾、公園施設など各インフラ施設についても、点検結果に基づく補修工事を進めます。
- 20 流域下水道施設について、健全度等を評価したストックマネジメント計画に基づき、機械・電気施設等を更新するとともに、宮津湾流域下水道の幹線管渠等の老朽化対策を進めます。
- 21 府民の身近な「気づき」を生かす府民協働型インフラ保全事業により、地域の安心・安全確保やインフラ長寿命化につながるきめ細かな対策に取り組みます。
- 22 京都技術サポートセンターと連携し、市町村公共施設を含めた点検、補修等のインフラ長寿命化対策や人材育成等を進めます。

鉄道網の着実な整備を進めるとともに、地域公共交通の利便性向上による生活の足の維持・確保に取り組みます。

- 23 J R 奈良線高速化・複線化第二期事業開業後も引き続き、京都府の南北軸の骨格を担う J R 奈良線、山陰本線の全線複線化に向け取り組むとともに、J R 片町線の高速化・複線化、関西本線の利便性向上等、関西文化学術研究都市を中心とした南部地域の鉄道ネットワークの充実強化に向けた取組を進めます。
- 24 鉄道駅における利用環境や待合環境の整備、駅を中心としたにぎわいづくり、交通系 I C カードの導入促進などによる更なる利便性向上を通じて、公共交通の利用を促進します。
- 25 京都丹後鉄道の防災・長寿命化対策や車両のリニューアルを進め、輸送の安定性を向上させるとともに、キャッシュレス決済や M a a S の導入などによる利便性向上を通じて、利用を促進します。
- 26 誰もが安心・安全に移動できる公共交通が維持・確保されるよう、市町村等の地域公共交通計画の策定を支援し、持続可能な公共交通の確立をめざします。
- 27 公共交通空白地の解消に向け、担い手確保など地域事情に応じた人材マッチングを支援し、地域の生活を支える路線バスネットワークを維持するとともに、タクシーや自家用有償旅客運送の活用、M a a S の整備により、生活交通を維持・確保します。

持続可能で暮らしやすいまちづくりを進めます。

- 生活様式の変化を踏まえた都市空間の利活用を促進するため、
▷道路や公園・河川などで、楽しく歩きたくなるネットワークや健康プログラム等を市町村やNPO等と連携して提供する「歩きたくなる健康まちづくりプロジェクト」の取組を進めます。
- 28 ▷移動手段の多様化による自転車利用の増加を踏まえ、誘導ラインの設置や舗装の補修などの走行環境整備を進め、安全性と利便性を高めます。
▷府立公園における手洗い場やトイレ等の衛生環境の改善、園路や芝生広場等のオープンスペースの整備などを進めます。
- 各地域の幹線道路となる、綾部宮島線、小倉西舞鶴線、（都）御陵山崎線等の整備や、けいはんな学
29 研都市におけるスマートシティの取組、北部地域における職住一体型生活圏の形成など地域特性に合わせたまちづくりを支援する道路の整備を進めます。
- J R 亀岡駅、J R 向日町駅、J R 八木駅、阪急長岡天神駅、阪急洛西口駅など駅周辺や、城陽市東部
30 丘陵など、城陽や八幡京田辺など高速道路のインターチェンジ周辺で土地区画整理事業などによるまちづくりを促進するとともに、関連する都市計画道路の整備を進めます。
- 31 公共交通をはじめ、居住機能や医療・福祉・商業等の様々なまち機能を維持・発揮できるよう、市町村の立地適正化計画の策定を支援し、持続可能で安心・安全に暮らせるまちづくりを促進します。
- 32 産業創造リーディングゾーンなど地域特性を生かした取組を踏まえた都市計画により、魅力と活力に溢れる、脱炭素で地球環境と調和した持続可能なまちづくりを市町村と連携して進めます。
- 33 府営住宅について、向日台団地及び城南団地等の建替を進めます。
- 行政に加え、不動産関係者、福祉関係者などが連携して、民間賃貸住宅における住宅セーフティネット
34 の取組を促進し、高齢者、障害者、子育て世帯及び新婚世帯等、住宅確保要配慮者が安心して暮らせる住宅を確保します。
- 働き方改革や生活様式の変化に対応した住まいを広げるため、融資制度の拡充などにより、情報通信
35 を利用するテレワーク等に適した間取りへの変更や、玄関への手洗い設置などの住宅改修を促進します。
- 36 府民から長く愛され、魅力溢れる空間の創出をめざし、府立木津川運動公園（北側区域）等で、民間企業や大学等と連携しながら公園の整備を進めます。
- 新名神高速道路開通に伴う新規企業の立地や、関西文化学術研究都市関連の開発などに対応するた
37 め、市町村の上水道施設の整備と連携を行うほか、今後のまちづくりの進展に応じて関連する流域下水道の汚水処理施設を増設します。
- 令和3（2021）年3月に策定した「京都府流域下水道事業経営戦略」及び令和5（2023）年
38 3月に策定予定の「京都府営水道ビジョン（第2次）」に基づき、府営水道施設及び流域下水道施設の持続的・効率的な事業運営を行います。
- 38 京都水道グランドデザインに基づき、水道事業の3つの圏域（北部・中部・南部）ごとに広域連携の取組を進め、経営基盤を強化するとともに、府と全市町村が連携して、汚水処理の広域化・共同化など府全体の持続的な汚水処理事業の運営体制の確立に向けた取組を進めます。